

4. 注目されているリユースびんの取り組み事例

1) 生協のRマークびんの取組み

ビールびん、一升びん、牛乳びんなどが、リユースびんの代表的な事例ですが、いずれも中身の飲料は、繰り返し使う際にも、同じ種類の中身を詰めて使われます。ところが、中身は異なっても、使っているリユースびんは同じ形、同じ規格のびんを使うという、ユニークな取り組みをしている生協グループ、「びん再使用ネットワーク※」があります。

※びん再使用ネットワークは、パルシステム、東都生協、生活クラブ、グリーンコープ、新潟県総合生協の5つの生協で構成し、リユースの普及活動をしている団体です

下の図は、生活クラブの事例ですが、ジュースを詰めて生協の組合員に提供して、使い終わってびんを回収すると、洗って、次には食酢に使い、次にはソースに使う、というように、規格統一されたびんで、中身の異なる品目に再使用します。



▲生活クラブのパンフレットより

規格統一びんを使用するメリットは、リユースの効率化です。このリユースびんを使っている生協は5団体で、合計組合員数が220万人です。この生協ではRマークのついた大きさの異なる7つの規格統一びんを、300品目の商品で使っています。

Rマークびんを使うことで、回収や選別、びんの洗浄効率が飛躍的に向上しました。このRマークびんは、5つの生協が共同して開発したびんです。

Rマークびんの取組みが、生協だけでなく、多くのメーカーが使うことで、社会全体に効率のよいリユースのシステムが広がることを期待して、どのメーカーでも使うことができる権利フリーのびんとなっています。

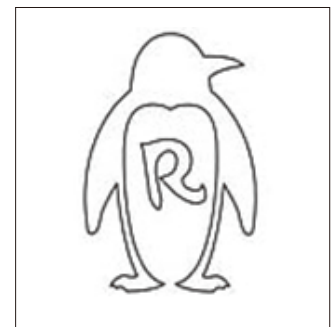


2) 若者に共感されるリユース容器Rドロップス

「環境に良い容器は、どんな容器でしょうか」とたずねると、学生や若い人たちの多くは、PETボトルである、という答えが返ってきます。

多くの飲料容器がPETボトルになって、若者の生活スタイルに浸透し、スーパーやコンビニエンスストアなどには、PETボトル専用の回収ボックスが設置されていることから、最も環境に良い容器との印象が定着してしまっただけです。

こうした中、リユースびんを若い人たちの身近な飲料容器として親しんでもらおうと開発されたのが「Rドロップス」です。



▲びんに刻印されているペンギンマーク
◀Rドロップスの試作品

当初のRドロップスは、試作した飲料でのアンケートで「おしゃれ」といった評価が多く若い人に好感されましたが、商品化にいたりませんでした。その理由は、繰り返しキャップすることができるスクリーキャップのリユースびんを使って製造できる設備を持つ飲料メーカーが、非常に少なかったからです。